

都市防災組織の取り組み

堺市中区域自主防災まちづくり

都市環境・緑化グループ

鹿喰 咲子

防災組織の現状と課題

堺市の自主防災組織(小学校区単位)の結成率

・・・90%

自分たちの地域の防災組織は形骸化している

(いざという時、機能しない)

課題抽出⇒役員は毎年交代、マニュアルがない

自主防災組織(地域グループ)の結成

組織づくりの重要ポイント

①隣近所の助け合い

防災班を基本とする全員参加の組織づくり

②災害時に機能する組織づくり

役割分担(平常時・非常時)の明確化

自主防災組織の活動

平常時の活動

- ・地区内の安全点検
- ・防災意識の普及・啓発
- ・防災訓練の実施

非常時の活動

- ・消火活動⇒救出救護
- ・情報の収集伝達

防災意識啓発について

- ①今、なぜ巨大地震・防災対策を取上げるのか
- ②大震災での5つの教訓とは、なんであったか
- ③地震発災前の準備と発災後の行動はどうすべきなのか

今なぜ巨大地震防災対策を取上げるか

市では、東日本大震災の津波被害の教訓を踏まえ、暫定的に津波高の想定を従来の2倍として津波避難対策を行っています。なお、国において、東海、東南海、南海の三連動地震の津波被害想定が夏ごろに発表される予定です。市では、これを受けて津波避難対策を再度見直します。

堺市も、 防災対策推進地域に指定されている



地域防災力アップを図らねばならない

防災の基本は「自助」

自助：7割 共助：2割 公助：1割（7割には啓発活動が重要）

- ② 最大の死因は建物の倒壊だった
- ③ 行政はすぐには助けに来ない
- ④ すぐに助けに来るのは隣近所だけ
- ⑤ 3日間、自分の命は自分で守る

発災前の防災対策

- ①堺市では木造住宅無料耐震診断を推進している
- ②家具の転倒防止（震度5でも家具は転倒）
- ③家族の集合場所・・・日頃から決めておく
- ④連絡方法・・・災害時には携帯電話は使えない
「災害伝言ダイヤル171」「災害伝言」
メールの使い方を知る。体験する

発災直後の行動

- ①グラッと来たら頭・足を保護し揺れの収まるのを待つ
- ②揺れが収まったら、家族の安全を確認し行動開始
- ③隣近所で救助活動・発災直後が勝負
- ④避難・家が焼失、倒壊した場合→避難・徒歩が原則
(車は使用禁止)